

障害のある幼児の保育に関する保育者の意見 —テキストマイニングを用いた職種による特徴の検討—

越中康治¹, 廣瀬真喜子², 松井剛太³, 朴 信永⁴, 若林紀乃⁵, 八島美菜子⁵, 山崎 晃⁶

¹宮城教育大学, ²沖縄女子短期大学, ³香川大学, ⁴椋山女学園大学, ⁵広島文化学園大学, ⁶明治学院大学

本研究の目的は、障害のある幼児の保育・教育について保育者がどのような意見を抱いているのか、さらには、クラス担任や主任、園長等の管理職といった立場の相違によって意見にどのような特徴が認められるのかを明らかにすることであった。KH Coder を用いて、保育者の自由記述についてテキストマイニングによる分析を行い、保育者の全般的な傾向をつかんだ上で、職種による記述の特徴を検討した。

キーワード: 障害のある幼児、保育、特別支援、遊び、テキストマイニング

1. 問題と目的

平成 19 年 4 月 1 日に改正学校教育法が施行され特別支援教育が法的に位置付けられて以来、障害のある全ての幼児児童生徒の教育の一層の充実が図られるようになった[1]。こうした動きのなか、小・中学校ではすでに、特別支援教育コーディネーターの配置や個別支援計画の作成などが求められている[2]。他方、七木田[2]は、幼稚園・保育所に関しては、一部の地域で先駆的な取り組みがなされているものの、保育における特別支援の取り組みは、まだ十分とは言えない現状にあることを指摘している。

保育の現場においても、特別支援教育の意識が高まって久しい[3]ともいわれる。しかしながら、松井[3]は、他方で“特別支援教育の影響によって、保育の根幹が揺らいだことも事実である”(pp.9・10)と警鐘を鳴らしている。具体的には、拙速な特別支援教育の拡大によって、障害特性論(子どもの障害に行動の要因を見る)による子ども理解や遊びを障害特性改善の「手段」とみなす考え方が蔓延し、本来の「どの子にもうれしい保育実践」がかえって難しくなると指摘している[3]。今日の保育者は、こうした難しさを抱える中で、障害のある幼児の保育・教育について何を考え、何を求めているのであろうか。

本研究の目的は、障害のある幼児の保育・教育について保育者がどのような意見を抱いているのか、さらには、クラス担任や主任、園長等の管理職といった立場の相違によって意見にどのような特徴が認められるのかを、その自由記述から明らかにすることである。また、本研究では、自由記述(テキスト型データ)の分析手法としてテキストマイニングを用いる。

樋口[4]によれば、テキスト型データを計量的に分析する方法としては、従来、Dictionary-based アプローチと Correlational アプローチのいずれかが用いられることが多かった。Dictionary-based アプローチとは、分析者の作成したコーディング基準にそって言葉や文書を分類する方法である。分析者の理論や問題意識を自由に操作化し、データの様々な側面に自由に焦点を絞ることができるという利点がある一方で、都合の良いコーディング規則ばかりが作成・利用されてしまう危険性もある。他方、Correlational アプローチとは、多変量解析によって言葉や文書を分類するアプローチである。分析者の持つ理論や問題意識の影響を極力受けない形でデータを要約・提示できるという利点がある一方で、自動的な言葉の切り出し・要約には限界があり、理論や問題意識を自由に操作化し追究することは困難である。

樋口[5]は、これらの 2 つのアプローチを互いに補い合う形で統合することを提案した上で、日本語テキスト型データの分析に適したシステムとして KH Coder を開発・公開している。本研究では、このフリーソフトを用いて保育者の自由記述を分析する。KH Coder は、語の選択にあたり恣意的となり得る「手作業」を排し、多変量解析によってデータ全体を要約・提示することと、コーディング規則を公開するという手順を踏むこととによって、操作化における自由と客観性の両立を可能にする。本研究においても、操作の詳細を明示・公開した上で多変量解析によるデータの要約・提示を行うことで、客観性を確保しつつ職種毎の特徴をとらえることを試みる。

2. 方法

保育者を対象とした質問紙調査において「幼稚園・保育所における障害児の教育・保育に関してご意見等をお聞かせください」と自由記述を求め、回答の得られた 308 名のテキストデータを分析の対象とした。その職種の内訳は、園長等(以下、園長)が 88 名、副園長・教頭等(教頭)が 37 名、主任等(主任)が 31 名、その他担任等(担任)が 152 名であった。自由記述の分析にあたっては、樋口[6, 7]を参考に、KH Coder(Ver. 2.Beta.30e)を使用した。

3. 結果

形態素解析(文章を単語あるいはフレーズ毎に切り分ける処理)には、KH Coder に同梱された茶筌(ChaSen)[8]を使用した。なお、以下の分析では、特に言及がない限り、設定はデフォルトのままとした。また、最終的な分析には、出現率 1 割を目安とし、出現数 30 以上の語を用いることとした。

3.1 前処理、複合語の検出及び語の取捨選択

まず、保育者 308 名の自由記述データを分析対象ファイルとして、前処理を実行した。文章の単純集計の結果、833 の文が確認された。また、総抽出語

数(分析対象ファイルに含まれているすべての語の延べ数)は 25,908、異なり語数(何種類の語が含まれていたかを示す数)は 1,696 であった。さらに、助詞や助動詞など、どのような文章にでもあらわれる一般的な語が除外され、分析に使用される語として 10,257 語(異なり語数 1,395)が抽出された。

次に、茶筌を利用して複合語の検出を行った。その結果を踏まえ、検出された複合語のうち出現数が 30 以上であった「障害児」(出現数 229)、「保護者」(136)、「保育者」(104)、「定型発達児」(64)、「保育所」(61)、「子ども達」(32)については、分析に使用する語の取捨選択において強制抽出する語に指定することとした。また、障害のある幼児の保育と関連が深いと考えられる言葉のうち、茶筌では検出されなかった「気になる」(出現数 38)についても、強制抽出する語に指定することとした。以上の手続きにより、これらの複合語を含む出現数 30 以上の 48 語を最終的な分析の対象とした。

3.2 保育者全体としての語の使用傾向

保育者の自由記述全般について、出現パターンの似通った語の組み合わせにどのようなものがあつたのかを探索するために、階層的クラスター分析(最小出現数 30、方法:Ward 法、距離:Jaccard)を行い、デンドログラム(樹形図)を作成した(図 1)。個々のクラスターについて概観すると、まず、一番上の第 1 のクラスターは、「気になる子が療育・診断を受けているか否か」に関する記述のまとめであることが見て取れる。もとのテキストを抜粋すると、具体的には、「診断名はついていないが気になる子がいる」(園長)、「気になる原因がどこからくるものなのか診断までに時間がかかりすぎ」(園長)、「『気になる子』が障害児と診断されていないが療育センターに通院しているケースが多い」(教頭)、「診断を受けていない子で気になる子の方が多い」(担任)などの記述があつた。

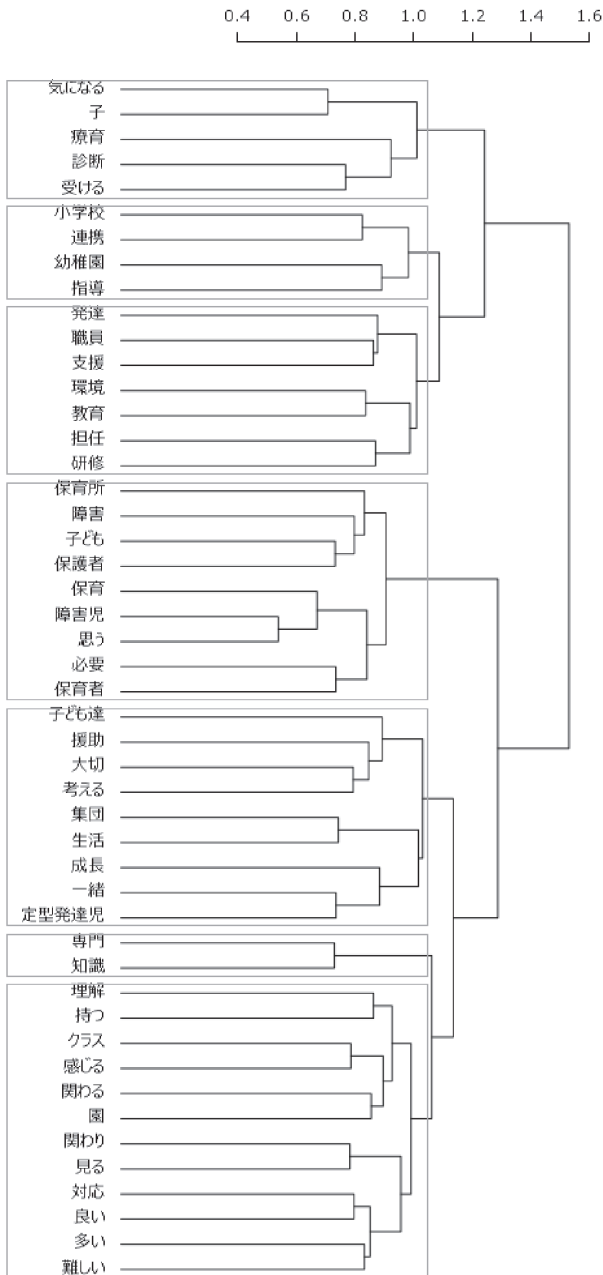


図 1 階層的クラスター分析の結果

第 2 のクラスターは、「小学校と幼稚園との連携・指導」に関する記述のまとまりであった。「幼稚園での指導と小学校での指導があまりにも違う」(園長)、「小学校との連携をいわれて久しいが、小学校の先生が機会をみて就学児の様子や適応の程度を積極的に見に来てほしい」(園長)などの記述がなされていた。

第 3 のクラスターは、「担任・職員に対する支援・研修」あるいは「発達を支援するにあたっての職員配置・環境」などに関する記述のまとまりと見て取れる。前者については、「障害児達への知識や対応につい

ては研修では学んでいます、(中略)初めて担任保育者になった職員もその子との信頼関係を築くのにもやはり時間がかかり…」(園長)、「障害児保育研修会など行っているが、他の子の保育もあるため、一部の職員しか行けていない」(園長)、「障害児を指導しやすい環境、研修の機会が作りやすいようにしてほしい」(教頭)などの記述がみられた。また、後者については、「恵まれた環境(個別対応ができる保育室や個別支援ができる職員がいる)の中では、障害児達にも適切な対応や細やかな指導ができるが、当園の現状では恵まれた環境とはいえず…」(園長)、「発達障害児が増えているが、施設環境や職員数からも十分な支援ができていないとは言えない」(担任)などの記述がみられた。また、第 4 のクラスターは、「障害児・子ども、保護者、保育者・保育所の 3 者にとって何が必要と思うか」に関する記述のまとまりといえそうである。

第 5 のクラスターは、「子ども達の援助」にとって何を大切と考えるか」や「定型発達児と一緒の集団・生活・成長」に関する記述のまとまりと見て取れそうである。特に後者に関しては、「障害児と定型発達児が一緒に生活をすることで、子ども達にも感じる心が育ち、様々な成長が見られます」(担任)、「障害児も定型発達児も一緒に楽しみ、一緒に生活できるようにしたい」(担任)などの記述がみられた。他方、「定型発達児と一緒にいることでストレスを感じたり、自分を抑えてしまうということもあるのではないか」(主任)、「障害児だけに目を向けるのではなく、クラス全体を見ながら定型発達児への配慮やケアも大切にしていかなければならないと感じる」(担任)、「障害児も定型発達児も満足感を感じながら幼稚園生活を過ごすためには、第三者の援助や助けも必要だと思う」(担任)などの難しさを感じるとする記述も多くみられた。

第 6 クラスターは、「専門知識」を求める記述のまとまりであった。「保育者自身が専門的な知識を持つことの必要性を感じる」(主任)、「専門的な知識を持つ

保育者や教諭が少ない」(担任)などの記述がみられた。また、第7のクラスターは「クラスの中での対応や関わりに難しさを感じる」という記述のまとまりと見て取れる。「現在の保育所の制度や職員の数では、障害児に対する対応までするのは難しい」(担任)、「難しいのは『障害かもしれない』というグレーゾーンの子ども達との関わりです」(担任)、「実際にクラスの中に入るとなると、一対一で付いていなければ、クラス運営が難しくなると思う」(担任)などの記述がみられた。

3.3 職種毎の語の使用傾向の特徴

職種毎の語の使用傾向を探るために、KH Coderの特徴語の一覧を作成する機能を用いた。職種の別(園長、教頭、主任、担任)を外部変数として設定した上で、各職種を特徴づける語として Jaccard の類似性測度(0 から 1 までの値をとり、関連が強いほど 1 に近づく)が大きい順に、上位 10 ずつをリストアップした(表 1)。さらに、共起ネットワークのコマンドを用い、語と職種との関係を描いた(図 2)。なお、図 2 は強い共起関係ほど太い線で描画されており、出現数の多い語ほど大きい円で描画されている。

表 1 及び図 2 から、園長と教頭においては、特に保護者に関する記述が特徴的であることがわかる。また、保護者への対応と関連して、気になる子という表現を用いつつ、小学校への就学、診断や療育、職員の研修などに関する記述が多くなされていることが見て取れる。このうち、小学校への就学に関しては、「就学前の子どもに関しては保健センターや小学校と

連携して状況を伝えあつて進めているが、保護者の気づきという点で不安がある」(園長)、「集団の中では明らかに違った行動が見えますが、実際に保護者は園側が誘わないと(中略)園での様子を見に来られない。(中略)2 歳児くらいの時から話し合いを続けていても納得していただけるのは就学前になってしまう」(園長)などの記述がなされていた。

また、診断や療育、職員の研修に関しても、「障害児の研修を度々受けますが、保護者との話し合いが非常に難しいと感じます」(園長)、「保護者対応も難しくなってきたので、たとえ診断が出ていなくても加配教員が必要だと思う」(教頭)など、難しさを感じているとする記述が多くみられた。これらの種々の連携を担うのは、小・中学校であれば、特別支援コーディネーターであろう。しかし、保育の現場においては、実質的に管理職が担っている可能性が示唆される。

主任と担任においては共通して「保育者、援助、大切」の語が特徴的であった。園長や教頭に比して、保護者よりもむしろ、障害のある幼児や保育者自身についての言及が多いのが特徴と見て取れる。また、特に主任では「持つ、必要、理解、交換、知識」などの語も特徴的であった。「保育者自身が専門的な知識を持つことの必要性を感じる」、「専門的な知識を身につけたり、職員間でも共通理解したりできるようにしなければならない」、「細かい情報交換を行い、お互い子どもに対しての理解を深めていかなければならない」などの記述があった。

表1 各職種を特徴づける語 (数値はJaccardの類似性測度)

園長 (n=88)		教頭 (n=37)		主任 (n=31)		担任 (n=152)	
保護者	.191	保護者	.153	持つ	.159	思う	.471
支援	.163	子ども	.123	必要	.152	障害児	.434
職員	.147	気になる	.117	理解	.143	保育者	.354
保育所	.145	保育	.115	障害児	.121	保育	.320
指導	.143	研修	.103	交換	.118	障害	.261
小学校	.141	増える	.102	関わる	.116	難しい	.229
施設	.133	就学	.100	大切	.115	感じる	.229
受ける	.132	教員	.098	状態	.114	定型発達児	.225
診断	.126	必要	.091	子ども達	.111	専門	.224
気になる	.124	療育	.091	本人	.111	良い	.223

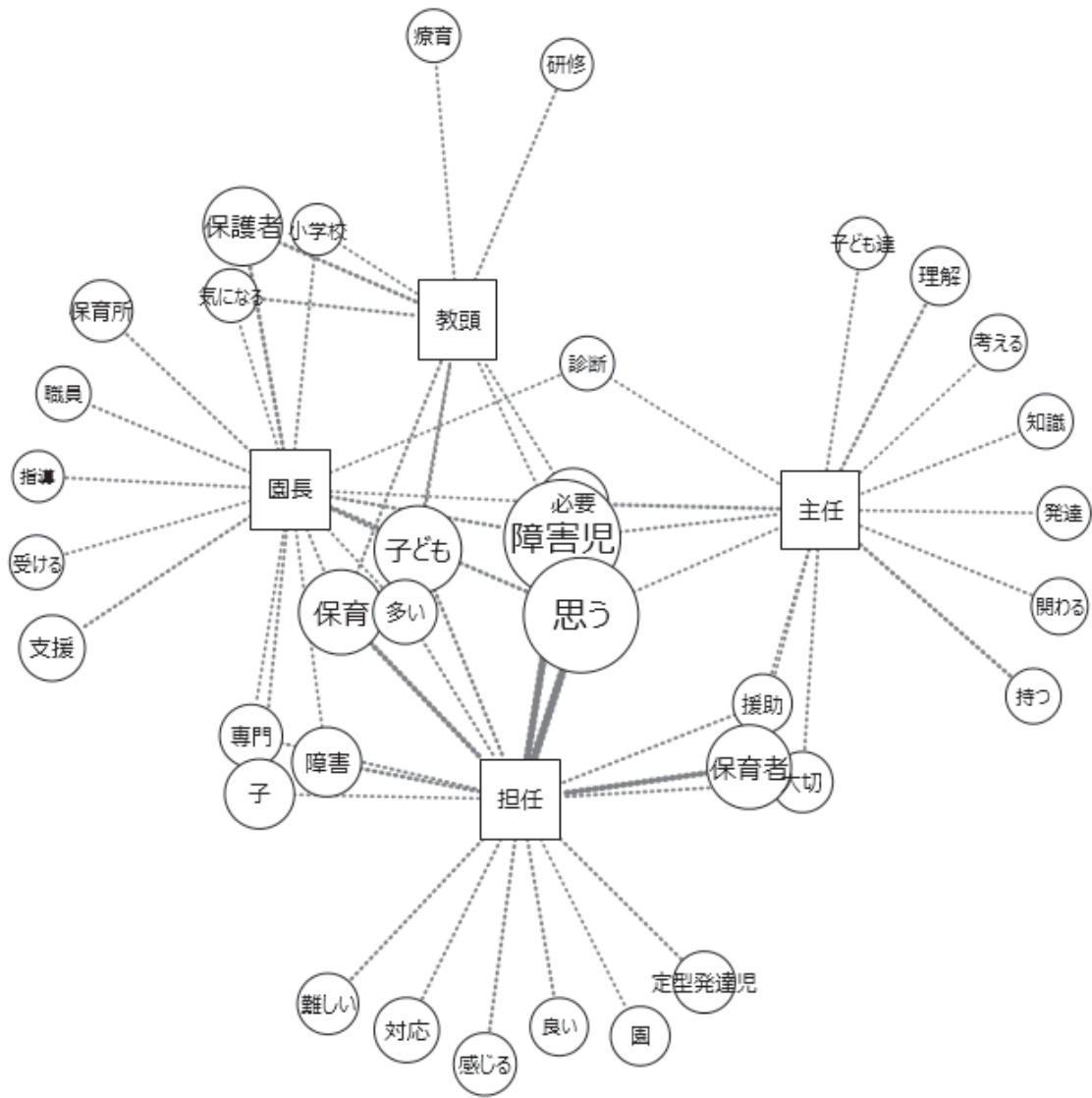


図2 共起ネットワーク

他方、担任では、「定型発達児、良い、難しい、感じる、対応」などが特徴的であった。図1の第7のクラスターでもみられたような「定型発達児に対するフォローも十分にできているのか不安になることがあり、クラスを運営する難しさを感じている」などの記述に加え、「早い時期に、障害の診断が出ていれば、具体的な援助の方法が分かるが、そうでない場合は、どうすれば良いのだろうか?」、「通常の保育所ではしてあげられることが限られており、障害児にとって良い保育をしてあげられる自信がない」、「どう対応していけば良いのか、すごく戸惑う」などの記述があった。

4. 考察

本研究では、KH Coder を用いたテキストマイニングにより、障害のある幼児の保育・教育に関する保育者の意見(自由記述)について分析を行い、保育者全体の結果と職種による記述の特徴を検討した。操作の詳細を明示・公開した上で多変量解析によるデータの要約・提示を行うことで、客観性を確保しつつ、職種毎の特徴をとらえることを試みた。

結果として、園長や教頭などの管理職においては、特に小学校への就学や療育・診断をめぐる保護者との関わりに課題を感じるという意見が特徴的であるこ

とが示された。これに対して、特に担任においては、障害のある幼児(「気になる子」を含む)と定型発達児の双方への対応に難しさを感じるという意見が特徴的であることが示された。また、保育者全体としては、「気になる子」に対する診断を求める意見、さらには、主に発達障害に関する専門的な知識・支援を求める意見も多いことが示された。結果の中で抜粋した他にも、「障害児と診断されてはいないが、気になる子が増えつつある現在において、早い段階で専門家に相談したり、その子との接し方や援助方法を知りたい」(主任)という意見や、「保育所の中でも専門的な役割を持って対応する人がいれば良いのではないか」(主任)という意見があった。これらの記述からも、障害のある幼児への対応のあり方を外部の専門家に求める傾向が少なからずあることが窺える。

他方、本研究において分析対象とした 308 名のうち、「遊び」や「遊ぶ」などの語を用いた保育者がわずか 7 名(遊び 5 名、遊ぶ 2 名)であったことも付記しておきたい。松井[3]は、“保育の中心活動である「遊び」”について、“本来ならば、十分に遊び込んだ結果、全体的な発達がうながされた”というのが本質であるにもかかわらず、“障害特性論に依拠すると、遅れがみられる発達の改善を促すために遊ばせるというように転じる”(p.10)と指摘している。保育者の意見において遊びそのものについて述べられたものが少なく、むしろ外部に対応のあり方を求める声が多い点にも、近年の障害特性論の強い影響があらわれていると解釈できるかも知れない。

もともと、本研究は障害のある幼児の保育全般に関する意見を求めたものであり、遊びに特化したものではない。それ故、この点に関しては、今後さらなる検証が必要であろう。障害のある幼児の遊びについて、保育者がどのように考えているのかを明らかにすることが今後の課題として残された。

5. 付記

研究に当たって科学研究費補助金(基盤(C)、25381325、研究代表者:山崎晃)を受けた。なお、本稿は日本発達心理学会第 25 回大会において発表した内容を加筆・修正したものである。

6. 引用文献

- [1] 文部科学省: 特別支援教育の推進について(通知)(2013年12月20日取得)
<http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07050101.htm>
- [2] 七木田敦: 保育と特別支援(総説), 保育学研究, vol. 51 (3), pp.4-8 (2013).
- [3] 松井剛太: 保育本来の遊びが障害のある子どもにもたらす意義—「障害特性論に基づく遊び」の批判的検討から—, 保育学研究, vol. 51 (3), pp.9-20 (2013).
- [4] 樋口耕一: テキスト型データの計量的分析—2つのアプローチの峻別と統合—, 理論と方法, vol. 19 (1), pp.101-115 (2004).
- [5] 樋口耕一: KH Coder Index Page(2013年12月20日取得)
<<http://khc.sourceforge.net>>
- [6] 樋口耕一: KH Coder 2.x リファレンス・マニュアル(2013年12月20日取得)
<<http://khc.sourceforge.net/dl.html>>
- [7] 樋口耕一: KH Coder 2.x チュートリアル(2013年12月20日取得)
<<http://khc.sourceforge.net/dl.html>>
- [8] 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 自然言語処理学講座(松本研究室): ChaSen (2013年12月20日取得)
<<http://chasen-legacy.sourceforge.jp>>